

緑風

帯広市立緑園中学校 学校だより No. 21

平成27年 3月24日発行 発行者 校長 辻 敦郎
教育テーマ 『静かな時間の創造』 今年度重点 『連帯する学びの構築』

《学校教育目標》

- 学ぶ人
- 思いやる人
- 鍛える人

涙の卒業証書授与式

3月15日の第24回卒業証書授与式が挙行されました。

それぞれに授与される卒業証書は、担任の呼名のあと学校長から固い握手とともに渡されました。答辞では、伊東実良さんが両親への感謝として「命を与えてくれて、そばにいてくれて、育ててくれてありがとう。」そして「今日を一つの通過点にして、成長していきます。今日まで歩いてきた道は未来へつながっているはずです。」と抱負を述べました。

最後には、在校生が校舎出口までアーチを形成し、その中をくぐり、巣立っていきました。卒業生107名の前途に幸多かれと願います。



謝辞

瞬く間に過ぎた平成27年度でした。今年度は、帯広市内中学校としては初めてとなる東京修学旅行（鎌倉・横浜）。体育祭色別T-シャツの導入とPTAおやじの会による飲み物販売。自転車を利用したフィールドワークの実施。生徒会選挙活動におけるテレビ放送の試行。文化祭では中庭での緑日の充実と学級展（学級によるワークショップ）の実施。さらには職場体験学習も二日間に延長。小学校との地域連携巡回指導では「中一ギャップ」の解消に大きな成果を見ることができました。本校の1年間の教育活動が無事に終わることができましたのも、地域・保護者のみなさまのご理解とご協力があってこそと深く感謝申し上げます。今後とも西帯広緑園地区の地域住民が一体となって、子どもの健やかな成長を支えていけると信じております。ありがとうございました。

帯広市立緑園中学校 校長

辻 敦郎

学校評価アンケートを受けて

保護者の皆様からいただきました学校評価についてお知らせいたします。

これらのご意見を真摯に受け止めながら、次年度の学校経営に生かしてまいります。ご協力いただきましたことに心より感謝申し上げます。

集計日 2015/12/19

(保護者) 学校評価 アンケート集計 結果

質問項目	評価			
	4	3	2	1
	十分である	おおむね十分である	やや不十分である	不十分である
Q1・緑園中学校は生徒の学力向上に取り組んでいますか。	16%	71%	12%	1%
Q2・生徒は自ら時間の管理ができ、よく学んでいますか。	10%	56%	31%	4%
Q3・緑園中学校は豊かな心を育てる教育実践を行っていますか。	18%	70%	10%	2%
Q4・生徒はよく挨拶ができ、感謝を表現できていますか。	19%	58%	18%	3%
Q5・緑園中学校は心身を鍛える生徒を育てていますか。	20%	63%	15%	2%
Q6・生徒は自ら、心身の健康を図っていますか。	17%	66%	14%	1%
Q7・生徒にとって活躍の場がある学校ですか。	25%	60%	12%	2%
Q8・保護者にとって協力し連帯できる学校ですか。	23%	64%	11%	2%
Q9・緑園中学校は生徒の自己教育力を高めていると思いますか。	20%	61%	16%	2%
Q10・緑園中学校は「個を伸ばす教育支援」を実践していますか。	15%	57%	23%	4%
Q11・緑園中学校の「保護者や地域への情報提供」に満足していますか。	26%	57%	15%	2%
Q12・教職員の「保護者や生徒への対応は親切」ですか。	26%	55%	11%	7%

提出 175 (62%)

自由記述

1	学力向上のために取り組んでいる先生方の指導・工夫について懇談会等で情報発信し、保護者に知らせていただけることがとても大切だと思います。
2	担任の負担があるということもあります。個々に平等な指導ということ意識すべきだと思います。生徒にそう感じさせないということが大事だと思います。
3	先生方のおかげで学校生活を送れています。
4	中間期末のテスト問題は教科書から出ているのでしょうか？
5	リュックの重さが10キロ以上あるのに驚いています。成長期のからだに悪影響がないか心配です
6	勉強だけでなく気持ちの面でとても難し時期ではありますが、先生方にいろいろ気にかけていただき感謝しております。今後ともよろしくお願いします。
7	担任の先生には特によくいただいています。いろいろご迷惑をおかけしますが子どもが「クラスが居心地がいい。楽しい」と言っており、学校へ行くのが大好きなのでありがたく思っています。本当にありがたいです。来年も担任を持っていただけるとありがたいです。

<分析>

- 1年を通して取り組んだ「学力向上」「生徒にとって活躍の場のある学校」の取り組みについて評価いただきましたので、引き続き向上を目指します。
- 「時間の管理ができる生徒」「個を伸ばす教育実践」等さらなる向上を目指します。

